



発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 小児急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター

 12月受診者数：2799人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 1507人 (1079人)
2. 嘔吐 965人 (558人)
3. 咳 888人 (160人)
4. 鼻水 717人 (23人)
5. 下痢 412人 (87人)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎：867人
2. 感染性胃腸炎：858人
3. 気管支炎：152人
4. 水痘：85人
5. 気管支喘息：68人



発刊のあいさつ

平成22年12月1日に神戸こども初期急病センターがオープンしました。こども急性疾患学部門では、急病センターの診療支援を行うとともに、こどもの急病に関する調査・研究を行い、その成果を発信し、地域のこども達の健やかな成長に貢献したいと考えています。エマージェンシー・ウォッチでは、その一環として、神戸こども初期急病センターの1か月の受診状況を報告し、その時々の子どもの病気について考えてみたいと思います。

このような情報をもとに、子ども達が健康な毎日を送れることを願っています。

竹島 泰弘

今月のワンポイント！

開設当初より多数の患者さんの受診があり、12月は2799人の受診でした。患者さんの訴えの中で最も多かったものは発熱でしたが、これはいつの時期でも同じで、発熱はこどもの病気でもっともよくみられる症状です。今月は、嘔吐・下痢のために受診された患者さんが多くみられ、その多くは感染性腸炎です。兵庫県感染症情報センターの報告でも、平成22年11月頃より感染性胃腸炎の患者数が増えており、年が明けてもその傾向が続くと考えられます。この時期の感染性胃腸炎の原因として、ノロウイルスによるものが言われています。吐物などの後始末の時はもとより、普段から手洗いを励行し、感染が拡がらないように注意して下さい。

インフルエンザの患者数が12月後半から少しずつ増えてきています。1月以降、注意が必要です。